

学術発表

回帰的社会契約主義の分配観と神人 調化（神人調化）

作成日：2025. 06. 22

目次

1 序

2 社会契約主義の限界

3 神

4 循環的（回帰的）分配構造

5 『

6 理念間の相互作用

7 『

8 結論および示唆点

問題意識：社会契約主義の限界

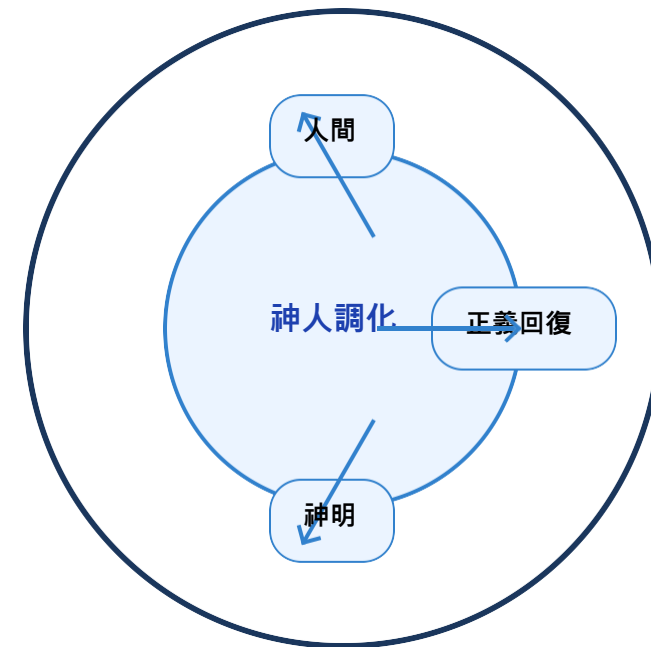
既存の社会契約主義の分配観は、義務主義と敗北主義に偏り、社会正義実現の限界に直面している。

- **努力に対する報償の問題**
社会契約主義の要点は、努力に対する応分の対価を報償されうるかという問題に帰結する。
- **倫理的無気力の発生**
過度な義務尊重による倫理の敗北主義化は、実質的な正義の実現を困難にする。
- **社会的連帯の弱化**
個人の権利中心の構造は、共同体内の連帯感と相互責任意識を弱化させる。

理論的背景：神人調化（神人調化）

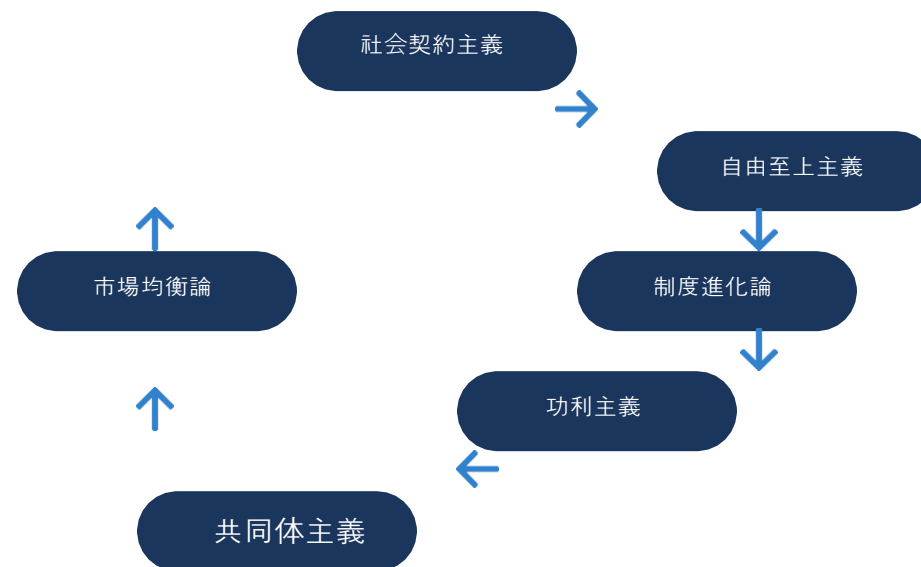
神人調化（神人調化）とは、人間と神明が回帰的に作用しつつ調和をなす循環的構造を意味する。

- **超越的制裁と調和**
神明（神力）は、契約違反、正義毀損などに対する超越的制裁機能を遂行する。
- **正義実現の基礎**
人間社会の正義実現のための新たな規範的基礎を提供する。
- **循環的フィードバック体系**
人間の行為—後果—神の介入—調和回復という循環的フィードバック体系を形成する。



循環的（回帰的）社会契約主義の構造

回帰的社会契約主義においては、多様な理念と思潮が循環的に統合され、分配正義実現の均衡点を見出す。



- 相互補完的循環構造

各理念は独立的限界を克服しつつ互いにフィードバックを与え合い、分配正義を拡張的に発展させる。

- 神人調化の作用

神明（神明）が媒介となり、理念間の均衡と調和をなす過程において正義が回復される。

『典経』の実際の事例

『典経』では、神人調化の原理が実生活においてどのように作動するかを、多様な事例を通じて示している。

● 契約不履行と神明の制裁

「約束を破れば神明に罰を受けるなり…」— 教法1章29節

社会的約束と契約違反の際、超越的存在によるフィードバック機構が作動

● 正義の確立と共同体の結束

「冤なく治められ、人々が互いに和合するようになった」— 権之1章11節

不義に対する積極的対応と社会正義の回復を通じた共同体の強化

● 倫理的実践の回復

「三綱五倫と中庸の誠敬信、大学の毋自欺…」

敗北主義の克服と積極的倫理実践を通じた神人調化的分配正義の具現

理念間の相互作用と限界の克服

自由至上主義、功利主義、共同体主義などの三理念の分散的限界を、回帰的・循環的社会契約構造へと統合し克服する。

各理念別の分配問題と神人調化的対応		
理念	核心的問題点	神人調化的対応
自由至上主義	個人的所有権の絶対視、不均衡な分配	経済的不義に対する神明の制裁、再分配の促進
社会契約主義	敗北主義的倫理観、契約不履行の放置	神明の介入を通じた正義の具現、実質的分配の促進
功利主義	最大幸福原則の曖昧さ、効用測定の問題	神人調化的フィードバックを通じた共同体効用の増進
共同体主義	共同善解釈の主観性、内部葛藤	超越的価値に基づく共同体結束力の強化

● 循環的構造の特徴

各理念の弱点が他の理念の強点で補完され、神人調化が正義実現のためのフィードバック機構として作用する。

● 実質的社会正義の具現可能性

結論および示唆点

倫理道德の実践と神人調化の循環構造が、社会正義および分配正義回復の核心であることを確認した。

- 大巡思想の実践的価値

「大巡の信条と目的は、三綱五倫と中庸の誠敬信、大学の母自欺にある。」

- 倫理実践の回復

正義と常道（常道）を重視する神明中心の倫理的フィードバック構造の確立

- 現代分配哲学への示唆

既存の理念の限界を回帰的・循環的に克服する分配正義パラダイムの提示

- 制度改善の方向

倫理的責任と相互連帯を強化する社会制度の基礎構造改革が必要

「神人調化を通じた回帰的経済観の確立は、社会正義回復の新たなパラダイムとなりうる」
